

全国中学校人権作文コンテスト東京都大会で式中生が奨励賞を受賞

12月8日、「平成24年全国中学校人権作文コンテスト東京都大会」の表彰式が催され、都内中学校から4万を超える応募がある中、式根島中学校3年黒澤昌治さんが奨励賞を受賞しました。おめでとうございます。

その作品を全文紹介します。

「もやい」

2011年10月16日、いつものようにごく普通にテレビに目を向けると一つの衝撃的なニュースに目を疑った。それは、中国で起きた女兒ひき逃げ事件だ。車でひかれ、ぐったりとしている女の子に対して見ぬふりをし通っていく。さらには、倒れている女の子を車で踏んで通っていったのだ。あまりにも衝撃的で悲しい、目をつぶりたくなるような映像だった。18人も人が通っていく。そして、19人目の人が道の脇によせ助けを呼んだ。これまでおよそ7分。病院で治療を受けたが、一週間後に亡くなったという。

この事件の背景にはもう一つの事件が関係している。その事件とは、倒れた老人を助けた青年が、その老人は青年に突き飛ばされたとして訴えられたというものだ。裁判の結果助けた青年は有罪となり、損害賠償を支払った。この事件以来、中国では善意で行ったことに恩を仇で返されるという考えが広まってきた。このようなことがあつたため、あのひき逃げ事件で18人も人が素通りをしたのかもしれない。しかし、初めに通りかかった人が19人目の人であれば、みんなが19人目の人の考えをもっていたら、そう考えると胸が痛くなる。

僕が住んでいる式根島は人口約五百から六百人程度の小さな島だ。そのため、島民全員が知り合いのようで、すれ違えばあいさつを交わし、長話に加わることもあるほどだ。さらに、えび網というイセエビ漁やいも掘りなど大変な仕事があればみんなの手伝っている。このように人と人のかかわりがとても深い。そのため、中国であつた恩を仇で

返すような事や事件は絶対になんかと思う。しかし、自分が都内へ行ったときはそれは思わなかった。

周りは誰も知っている人はいない。あいさつも交わさない。これは当たり前のことだし、あいさつなどしようと思つても人が多すぎて不可能なことだ。そこで、中国で起きたひき逃げ事件が都内のどこか、人の多い場所できたとする。そして自分分は真つ先に助けに行くことができるだろうか。きつと誰か先に行くのを見てから、自分はその様を見るだけになってしまふと思う。誰か一人助けに駆けつければそれでいいと思つてしまふ。よくニュースなどでも、一人の力で助かったなどということとを言っている。しかし、その場にいる人全員が自分が助けなければという意思を持っているなら、被害にあつた人の助かる可能性は格段に高くなるのではないかと思う。

新島村では今でもよく知られる「もやい」という言葉がある。これは古来伝わる日本語だが、

現代では死語に近くほとんど使われない。漢字で「催合」と書き、共同で事に当たるという意味で、「協力」という言葉とよく似ている。この言葉があるせいか、先ほど紹介したように、式根島では大変な仕事があるとみんなの手伝うという習慣がある。

この「もやい」の精神を皆が持っているなら、事故があつたときなどにもすぐに駆けつけることができるのではないかと思う。さらに、恩を仇で返すということも、みんなが助けにくれたからという感謝の気持ちへ変わってゆくのではないかと思う。この「もやい」という日本古来の言葉をこんな時代だからこそ日本中の人々、外国の人へも知ってもらいたいと願う。



調整室からお知らせ

【お引越される方へ】

▼島外へ行かれる方
島外へお引越される方で、引越後にも広報にいじまを購読したい方は、

- ① 新住所
- ② お名前

③ 90円切手12枚
を企画調整室までお持ちください。ご親戚や知人の方に送りたい場合も同様です。

▼島内で移動される方

お名前、旧住所、新住所を企画調整室までお知らせください。

▼その他、大家とインキョと2部欲しい方

企画調整室まで、お名前とご住所をご連絡ください。ご連絡のあつた次の号から2部配布するよう手配します。

【結婚・出産された方へ】

ご結婚やご出産された方で、広報に写真を掲載してもよいとお考えの方は、企画調整室までご連絡ください。

問い合わせ・連絡先

企画財政課 企画調整室
☎(5)0240内線203

メール kouhou@nijima.com